

「山川高等学校の棚田保全活動の取組」

1. 学校名	鹿児島県立山川高等学校
2. 学年・人数	園芸工学・農業経済科3年生 6名
3. 日時・場所	(1) 令和6年7月10日(水) 14:00~15:30 山川高校視聴覚室 (2) 令和6年12月4日(水) 13:30~16:00 指宿市山川利永尾下集落
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	・ 指宿市山川利永尾下集落 指宿市山川利永尾下集落は、現在、丘陵な斜面に棚田が広がっている。 令和4年3月に農林水産省から「繋ぐ棚田遺産」に認定されている。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	・ 指宿市の地域おこし協力隊と連携し地域の魅力についての学習を行った。農業科目の地域資源活用の授業を活用し、地域の取組や魅力ある地域の学習を通して、自分たちが住んでいる地域を改めて見つめ直し、良さを生徒自身が感じて知ってもらう。 ・ 指宿市の地域おこし協力隊の神野正樹氏（農山村・棚田デザイン担当）と指宿市役所農政課農政企画係の中村氏を講師に招いて、利永尾下地区の棚田のこれまでの活動による再生とこれからの魅力発信について講義をいただいた。 ・ 12月に地域おこし隊の神野さんの協力のもと、地域資源活用の授業の中で実際に棚田での環境保全活動を行った。生徒は、それぞれ草刈り機を使い棚田のあぜに生えた草を約1時間かけて丁寧に刈りとった。
6. 取組の様子（研究発表等）	出 前 講 座 棚田保全活動 草払い
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	・ 地域おこし隊の行っている活動について知ることが出来た。 ・ 尾下地区の人口が減ってしまい、せっかくの棚田が活用できないのはもったいないと思いました。その棚田を整備し、稲作を始めていた神野さんは、とてもすごい人だと思いました。 ・ 指宿は観光名所として、観光客がきているところはごく一部で、実態は、観光客も来ず、人口も減っている地区があるので、私たち若者がその地域特有のものを観光と結びつけて、その地域に人を呼びたいです。 ・ 活動内容が幅広いと感じました。活動していく中でのやりがいを「うまくはいかないけど、それも楽しい」「地域の方と話すのも楽しい」とすごくやりがいのある活動であることがわかりました。